



新世代モバイル通信システム委員会 の審議再開

総務省
総合通信基盤局電波部
移動通信課

- 5Gの利用拡大や周波数の追加割当て等に向けて、**新世代モバイル通信システム委員会の審議を再開**
- 可能な限り早期に制度化を図るため、**結論が得られた議題から順次とりまとめ**

主な議題とポイント（想定）

1. 5G※の利用拡大に向けた技術的条件の策定

※ローカル5Gを含む。ただし、技術的条件に限るものとし、ローカル5G制度に関わる議論を除く。

- 中継局（陸上移動中継局、小電力レピータ）、フェムトセル基地局、高出力端末の導入に向けた共用検討及び技術基準の策定
- 空中線電力／利得の規定の見直し（EIRP化等）

技術検討
作業班

2. ローカル5Gのより柔軟な運用に向けた検討

- 他者土地利用の考え方の再整理
- 広域利用の検討
- 免許手続の簡素化 等

ローカル5G
検討作業班

3. 上空利用拡大に向けた検討

- TDD-LTE方式、既存（LTE）バンドのNR化（FDD-NR）方式の利用の検討
- 150m超上空での利用の検討
- 5G周波数（Sub6、ミリ波）、ローカル5Gでの利用の検討

上空利用
検討作業班

4. その他

- 5G新周波数帯の確保に向けた検討状況
- その他諸課題に関する整理

技術検討
作業班 等

議題1 5Gの利用拡大に向けた技術的条件の策定

5Gは高い周波数帯を利用することから空間及び遮蔽物による減衰が大きいいため、中継局等による効率的な通信エリアの拡大や、屋内での通信環境の向上等が期待される。このため、TDD方式の5Gにおける

- ① 中継局(陸上移動中継局、小電力レピータ陸上移動局)、フェムトセル基地局の導入
 - ② 高出力端末(陸上移動局)の導入等
- に関して検討する。

(現在、同期・非同期及びキャリアアグリゲーションに関する一部の基準を除き、全国5Gとローカル5Gの技術基準は特段の区別がなく設けられており、本テーマについても共通的に検討。)

① 中継局等の導入

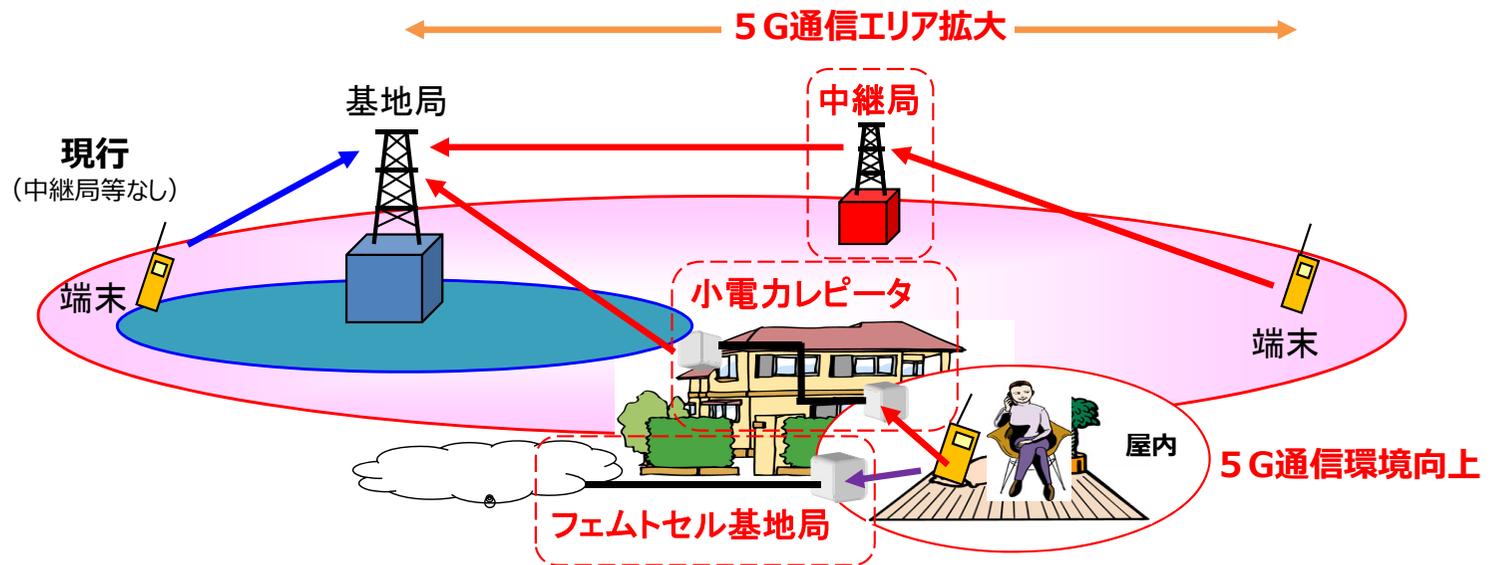
想定対象周波数帯

- 中継局・レピータ (L5G含む)

5G NR(TDD) {
 3.4/3.5/3.7/4.5/28GHz
 4.8GHz/28GHz (L5G)
 2.5GHz (BWA)

- フェムトセル

5G NR(FDD) ~2GHz
 5G NR(TDD) {
 3.4/3.5/3.7/4.5/28GHz
 2.5GHz (BWA)



② 高出力端末(HPUE*)の導入

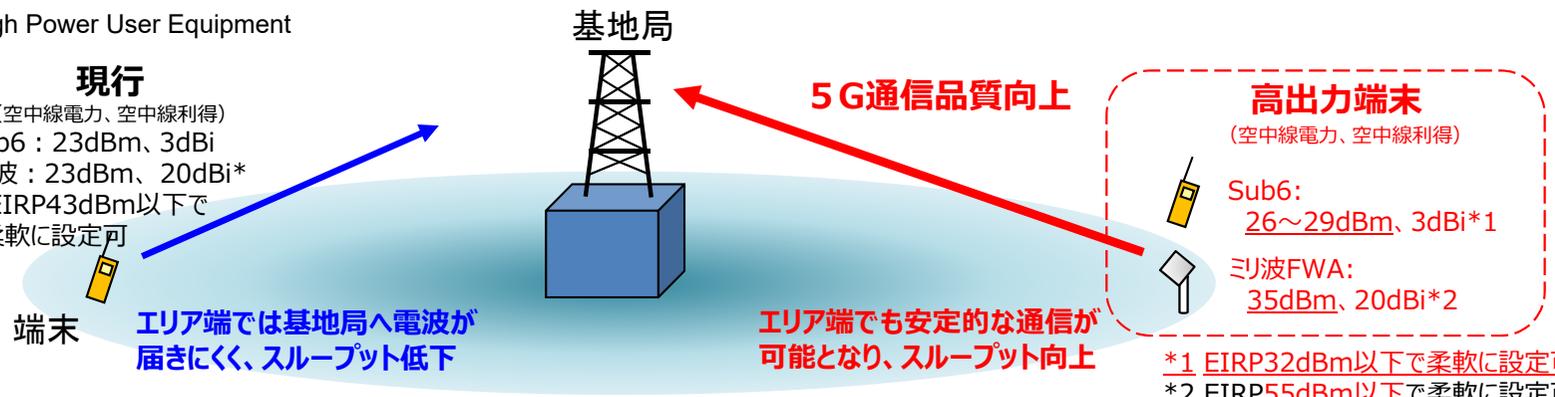
*High Power User Equipment

想定対象周波数帯

- HPUE (L5G含む)

5G NR(TDD) {
 3.4/3.5/3.7/4.5/28GHz
 4.8GHz/28GHz (L5G)
 2.5GHz (BWA)

現行
 (空中線電力、空中線利得)
 Sub6 : 23dBm、3dBi
 ミリ波 : 23dBm、20dBi*
 * EIRP43dBm以下で柔軟に設定可



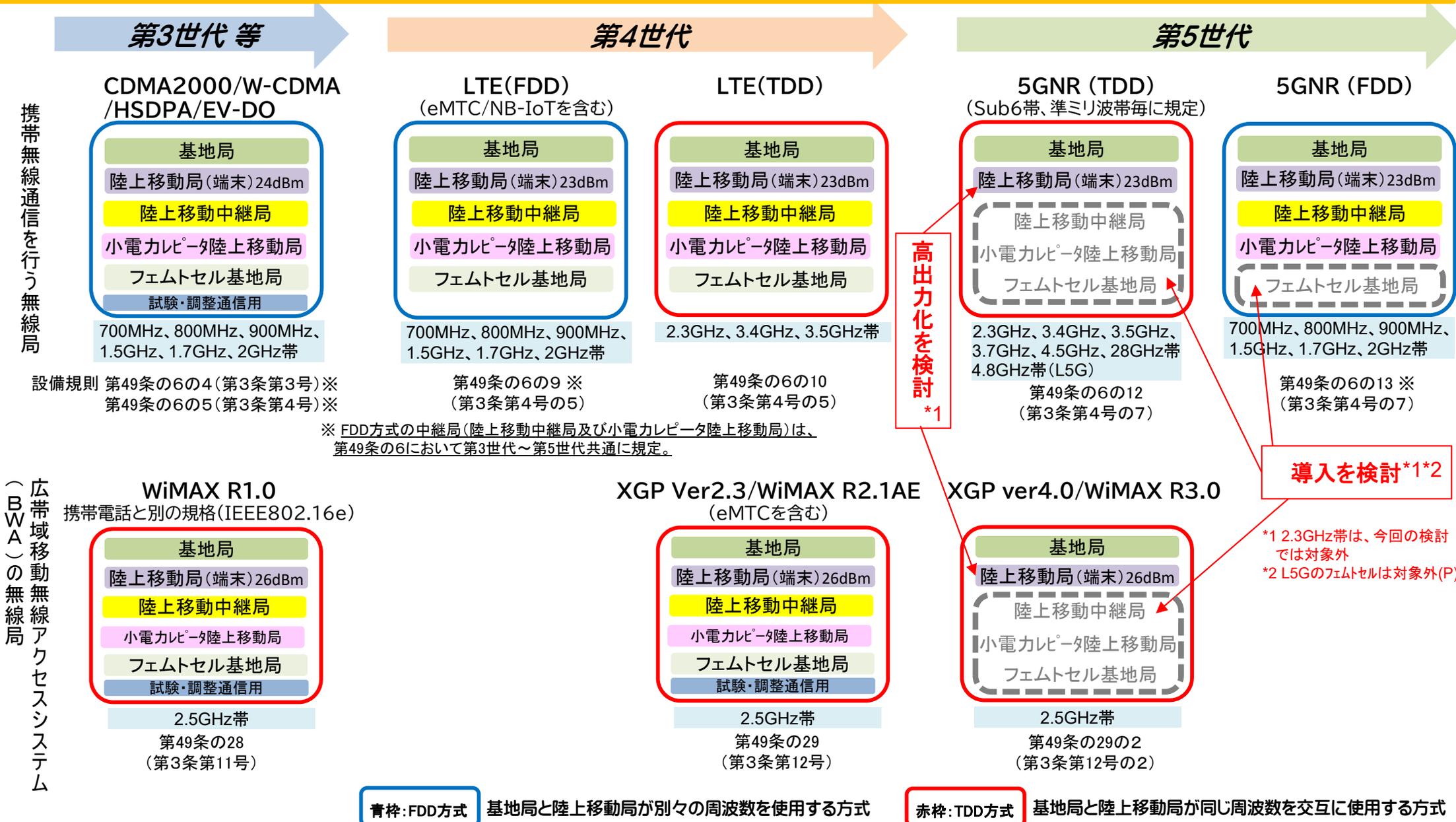
その他、EIRP規定の導入(空中線利得の規定の見直し)や、キャリアアグリゲーション時の電力総和規定の見直し等についても検討。

*1 EIRP32dBm以下で柔軟に設定可
 *2 EIRP55dBm以下で柔軟に設定可

(参考) 5Gの利用拡大に向けた技術的条件の策定 (想定検討対象)

現在、第4世代は中継局等を規定済。第5世代においては中継局等の規格が未整備のため、導入を検討する。また、5GNR(TDD)の陸上移動局(端末)の高出力化(26~29dBm)を検討する。

(注)本表は検討開始当初における対象の想定であり、検討状況に応じて見直しの可能性あり。



導入を検討 *1*2

*1 2.3GHz帯は、今回の検討では対象外
*2 L5Gのフェムトセルは対象外(P)

青枠:FDD方式

赤枠:TDD方式

基地局と陸上移動局が別々の周波数を使用する方式

基地局と陸上移動局が同じ周波数を交互に使用する方式

想定スケジュール（最短）（案）

